

「ボーナスと暮らし向きに関するアンケート調査」(2015年夏)の結果

当センターでは、2015年夏のボーナス予想や暮らし向きについて、千葉銀行各支店の来店客(1,000人)を対象にアンケート調査を実施し、その結果は次のとおりとなった。

概 要

1.ボーナス予想額 : 51万1千円(昨夏比、10千円増加(2.1%増))

今回のアンケート調査は、政府や社会からの賃上げ要請の効果が徐々に始めている中でおこなわれた。

今夏のボーナス予想額は51万1千円となり、昨夏の受取額実績から10千円増加するアンケート結果となった。予想伸び率は「+2.1%」であり、昨夏のアンケート結果「+1.7%」に比較すると0.4ポイントの増加となる。

2.暮らし向きアンケート調査について

今後半年間の見通しについて、「悪くなりそう」との回答(20.0%)が「良くなりそう」との回答(9.2%)を上回ったが、昨年2回のアンケート結果に比較すると、「悪くなりそう」と「良くなりそう」の差が徐々に縮小してきている。

▽ボーナスの増減予想では、「増えそう」が、17.7%(昨夏 17.6%)と0.1ポイントの微増。一方「減りそう」は11.2%(昨夏 13.2%)で2.0ポイント減少した。また「変わらない」は71.1%(昨夏 69.2%)で7割余りを占める。

▽ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「教育・教養」、3位は「ローンの返済」で、以下「買い物」、「生活費の補填」、「旅行・レジャー」の順となった。

▽貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」82.4%、「社内預金」6.9%、「ゆうちょ貯金」5.1%、「株式・投信」4.1%の順となっている。銀行預金の堅調さが今夏も目立っている。

▽貯蓄の目的は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー」、4位「住宅関連資金」、5位「不時の備え」、以下「車の維持管理」、「結婚資金」の順となっている。

▽購入希望品目では、1位「婦人服」、2位「家具・インテリア」、3位「紳士服」が上位を占めた。既婚・独身を問わず男性は「紳士服」、女性は「婦人服」をそれぞれ1位にあげている。

調査結果

1 ボーナスの増減予想

—ボーナスの増減予想では、「増えそう」が 17.7%(昨夏 17.6%)と 0.1 ポイント微増した。一方「減りそう」は 11.2%(昨夏 13.2%)と 2.0 ポイント減少した。また「変わらない」が 71.1%(昨夏 69.2%)で 7 割余りを占める。—

増減予想を年齢階層別にみていくと、30 歳未満・30 歳代は、「増えそう」が「減りそう」を大幅に上回っており、40 歳代は、昨夏は「減りそう」の方が多かったが今回は「増えそう」が上回った。そして 50 歳代は「減りそう」の方が多い状況が続いている。また「増えそう」との回答は 30 歳代・40 歳代で昨夏に比して増加している。一方「減りそう」との回答は 30 歳未満・40 歳代・50 歳以上で減少、30 歳代では増加している。

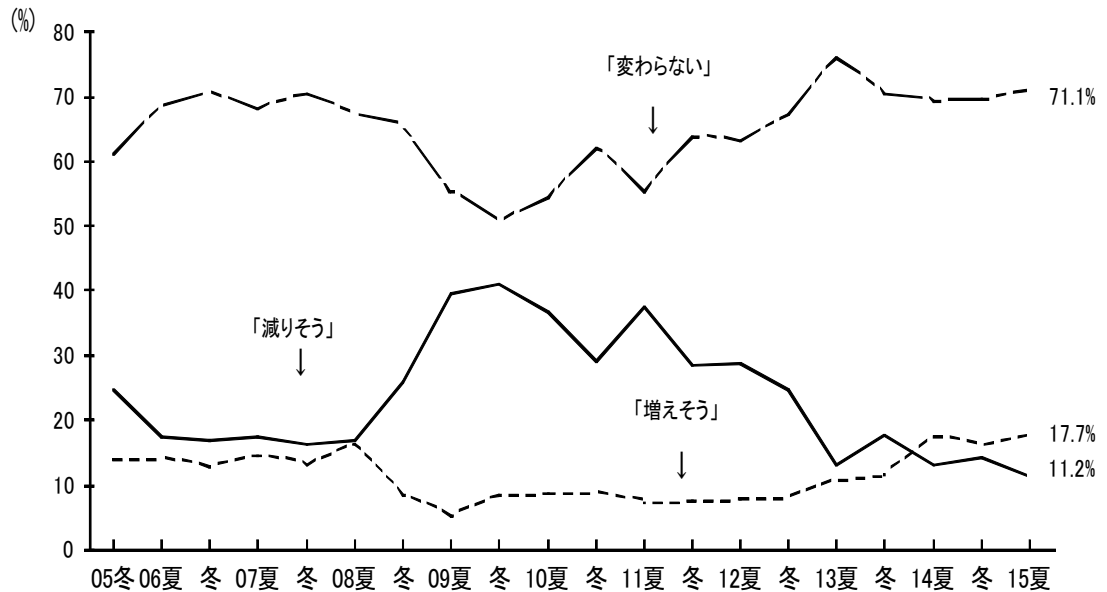
「変わらない」の回答は依然として全年齢層で過半を占めている(図表-1、2)。

全体としては、「増えそう」の回答が増加しつつあるが、比率はまだ小さい。

なお、ボーナス予定日は、「6月中」が全体の 60.5%で、「7月中」が 30.5%との回答であった。

		「増えそう」	「減りそう」	「変わらない」
全 体	13夏	10.9	13.1	76.0
	14夏	17.6	13.2	69.2
	15夏	17.7	11.2	71.1
30歳未満	13夏	19.0	8.5	72.5
	14夏	29.8	12.5	57.7
	15夏	29.1	9.0	61.9
30歳代	13夏	15.8	13.0	71.2
	14夏	21.2	6.6	72.3
	15夏	24.3	8.1	67.6
40歳代	13夏	6.3	13.6	80.1
	14夏	12.9	15.3	71.8
	15夏	13.4	10.4	76.1
50歳以上	13夏	6.3	16.1	77.6
	14夏	12.3	16.9	70.8
	15夏	10.3	15.4	74.3

図表-2 ボーナス増減予想割合の推移



2 ボーナスの予想額

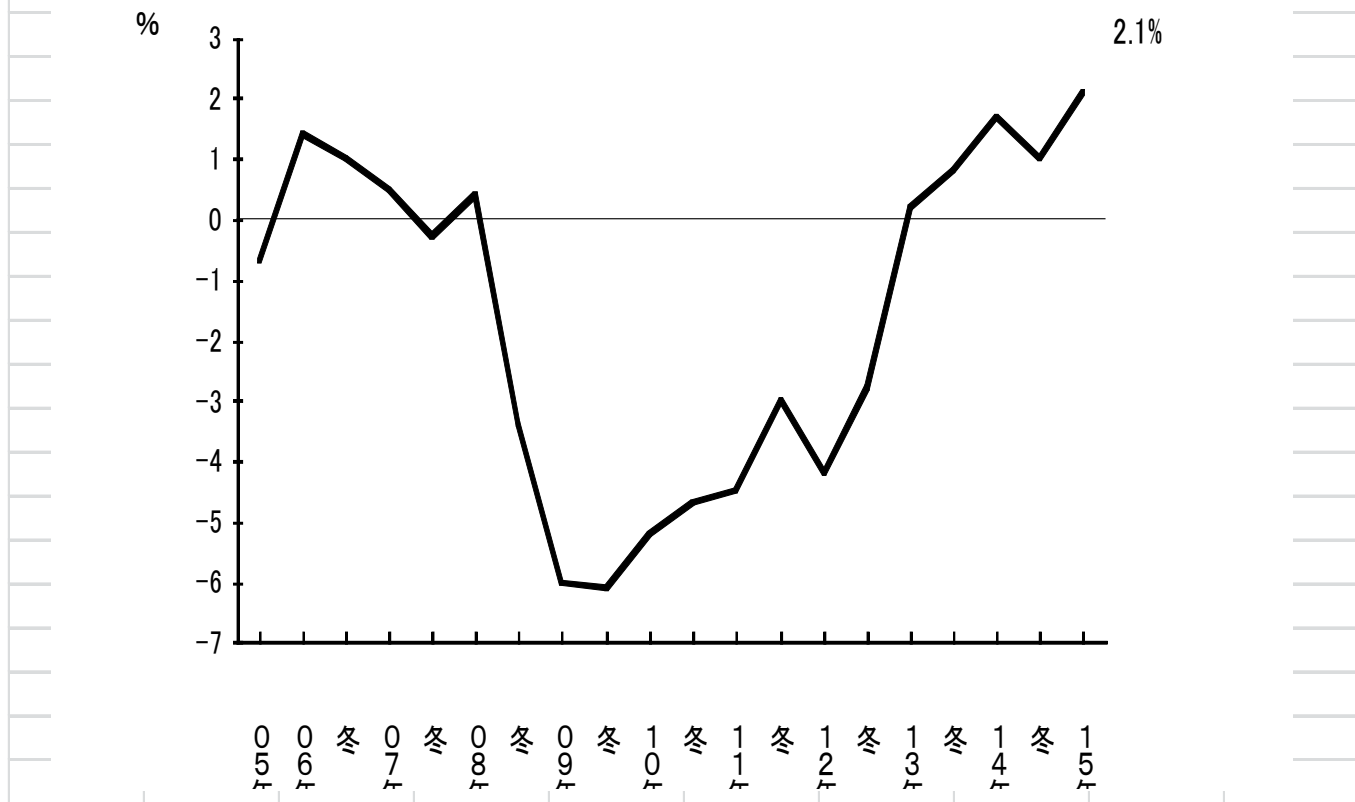
—今夏のボーナス予想額は51万1千円となり、前年の受取額(回答者の実績)を10千円上回った。予想伸び率は+2.1%で、昨夏の+1.7%(9千円増加)に比較して向上している。—

ボーナスの予想額は、50歳以上で若干の減少となったが、他の年齢層では前年を上回る受取額を予想しており、若い世代ほど伸び率が高い。また、勤務地別での予想額は、都内勤務者の方が高いが、前年夏実績比の「予想伸び率」は、県内勤務者(2.1%)の方が上回る結果となった(図表-3、4)。

図表-3 ボーナス予想額・予想伸び率

		予想額 (万円)	予想伸び率 (対前年夏、%)
全体		51.1	2.1
30歳未満		39.6	10.4
30歳代		44.2	3.3
40歳代		53.7	1.2
50歳以上		60.4	△0.9
勤務	県内	48.1	2.1
地別	東京	67.2	1.7

図表-4 ボーナス予想伸び率の推移(県内勤務者)



3 ボーナスの配分予定

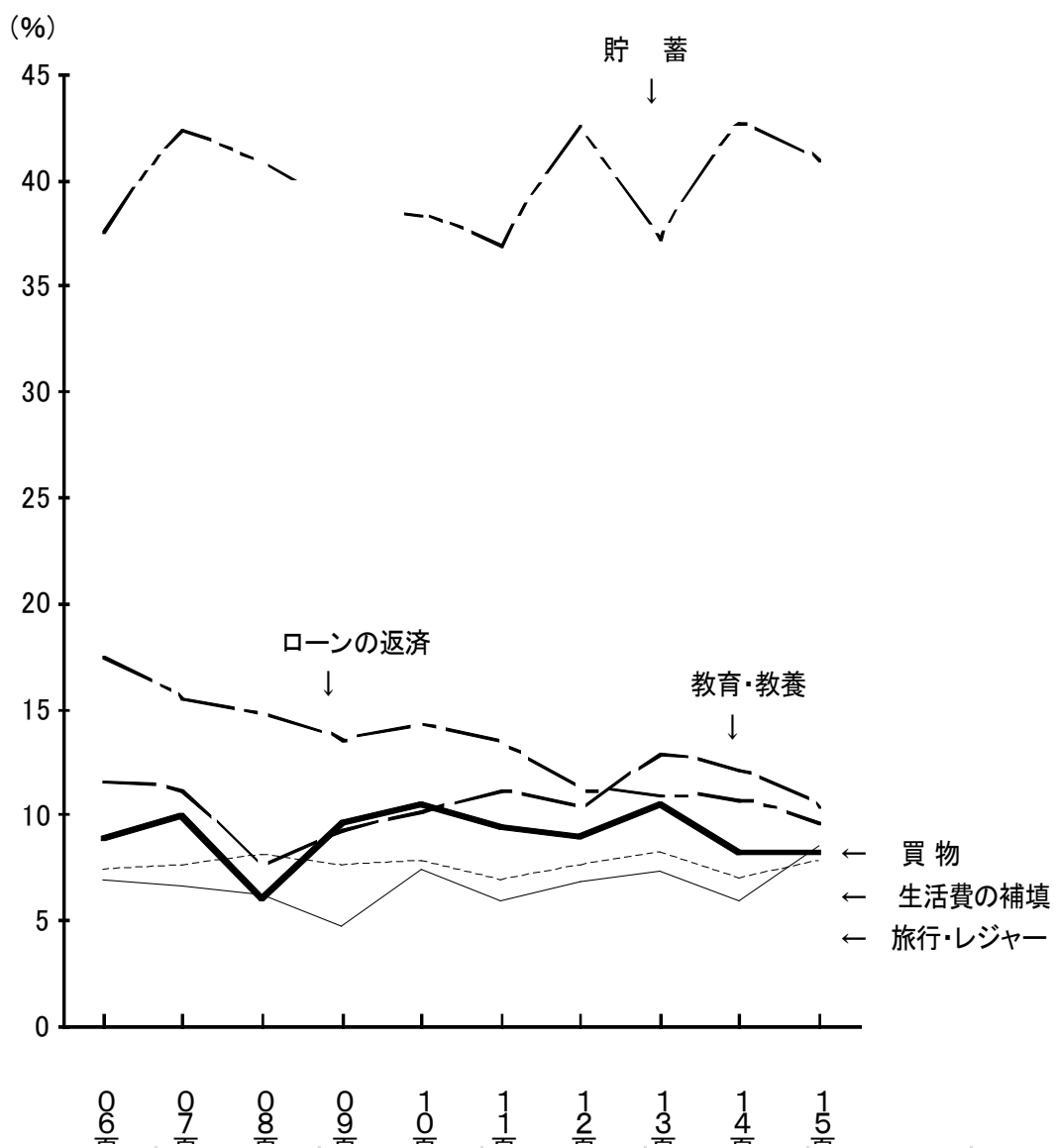
—ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「教育・教養」、3位は「ローンの返済」である。以下「買い物」、「生活費の補填」、「旅行・レジャー」の順となった。—

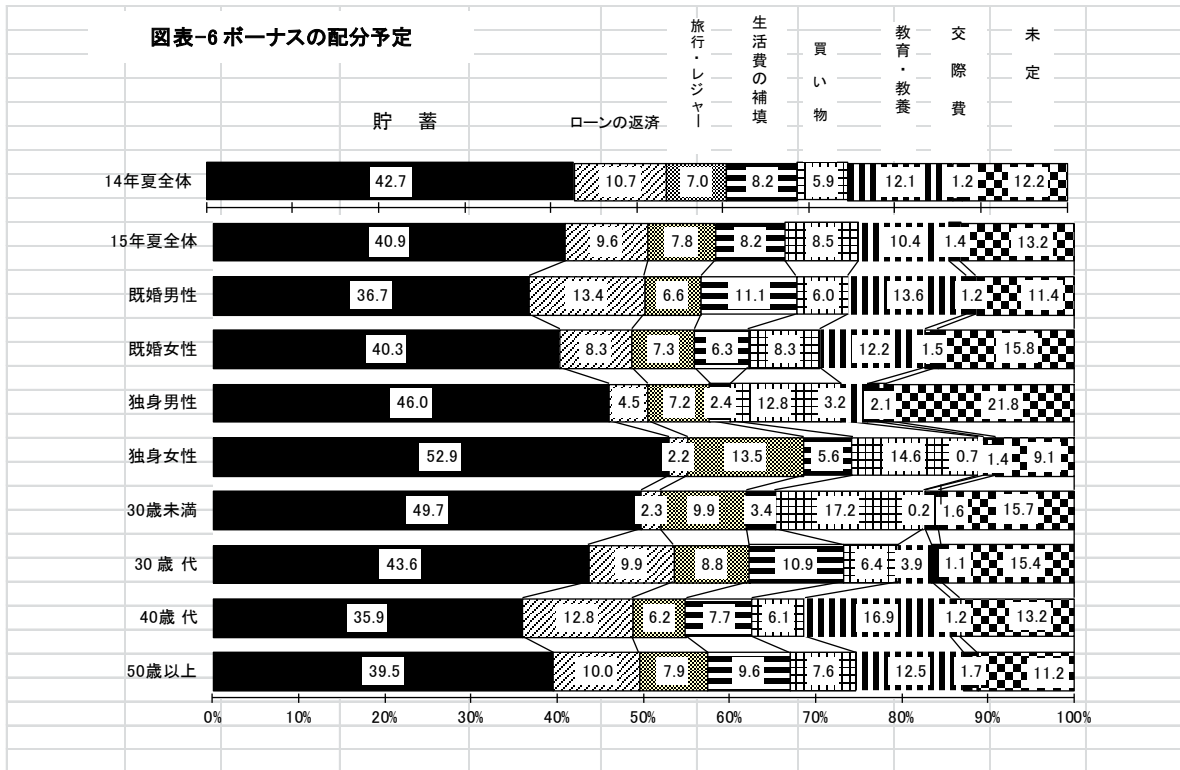
ボーナスの配分予定は、1位「貯蓄」(40.9%)、2位「教育・教養」(10.4%)、3位「ローンの返済」(9.6%)で、以下「買い物」(8.5%)、「生活費の補填」(8.2%)、「旅行・レジャー」(7.8%)の順となっている。「貯蓄」は、景気が良くても悪くても常にトップである。

既婚・独身、男・女を問わず、「貯蓄」に回す割合が高い。特に独身者は女性、男性ともに貯蓄志向が高く、女性は52.9%、男性は46.0%を貯蓄に回すと回答している。「貯蓄」以外の項目では、独身者は既婚者に比べて、「買い物」と「旅行・レジャー」のウェイトが高く、既婚者は独身者に比べて「教育・教養」、「ローンの返済」が高く、独身者と既婚者のそれぞれの特徴を表わしている。

年齢別でも、全ての年齢層において、「貯蓄」が一番の配分となっている。特に、30歳未満(49.7%)と30歳代(43.6%)は貯蓄意欲が高い。「貯蓄」以外の年齢階層による特徴としては、30歳未満は「買い物」、30歳代は「生活費の補填」、40歳代・50歳以上は「教育・教養」の配分割合が高くなっている(図表-5、6)。

図表-5 ボーナスの配分予定の推移

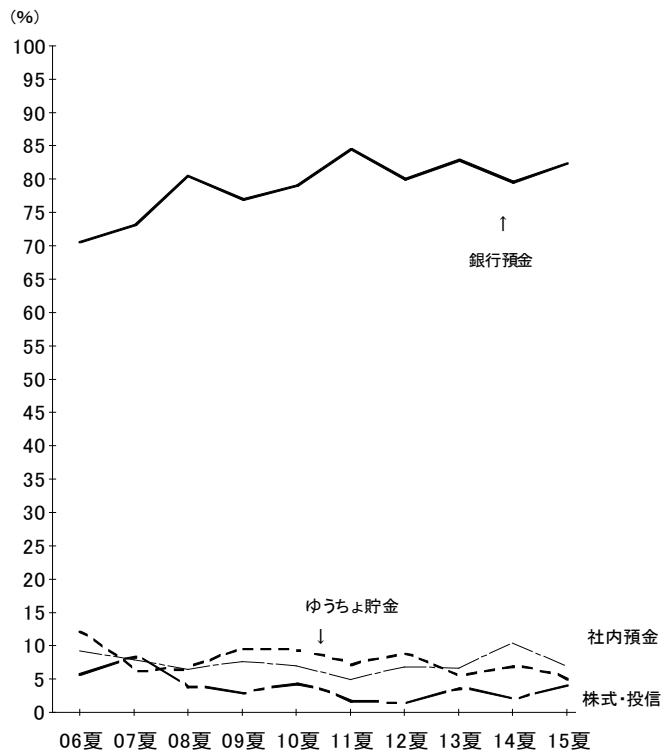




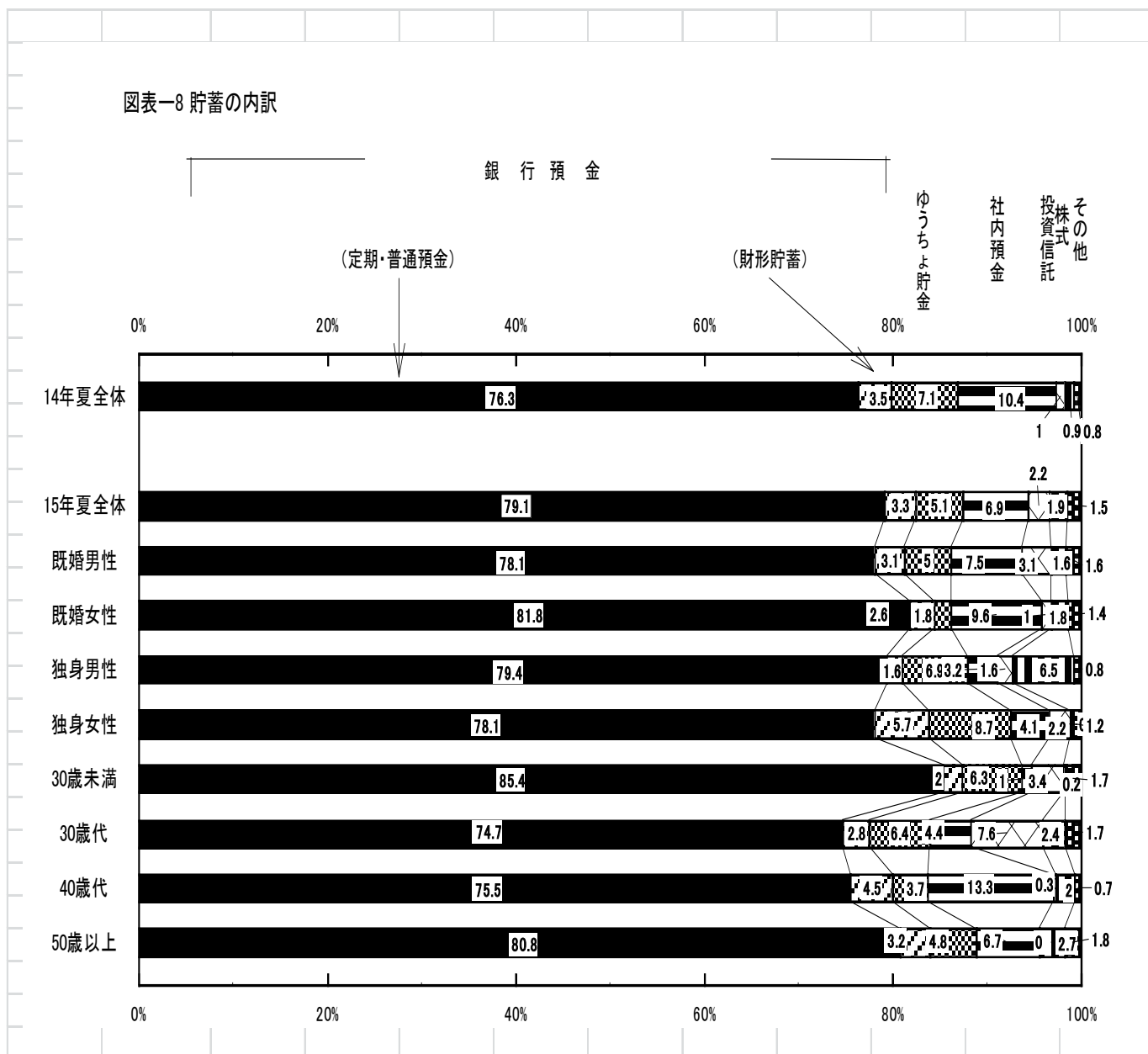
4 貯蓄の内訳

—貯蓄の内訳をみると、「銀行預金（財形貯蓄を含む）」82.4%、「社内預金」6.9%、「ゆうちょ貯金」5.1%、「株式・投信」4.1%の順となっている。銀行預金の堅調さが今夏も目立っている(図表-7)。—

図表-7 貯蓄の内訳推移

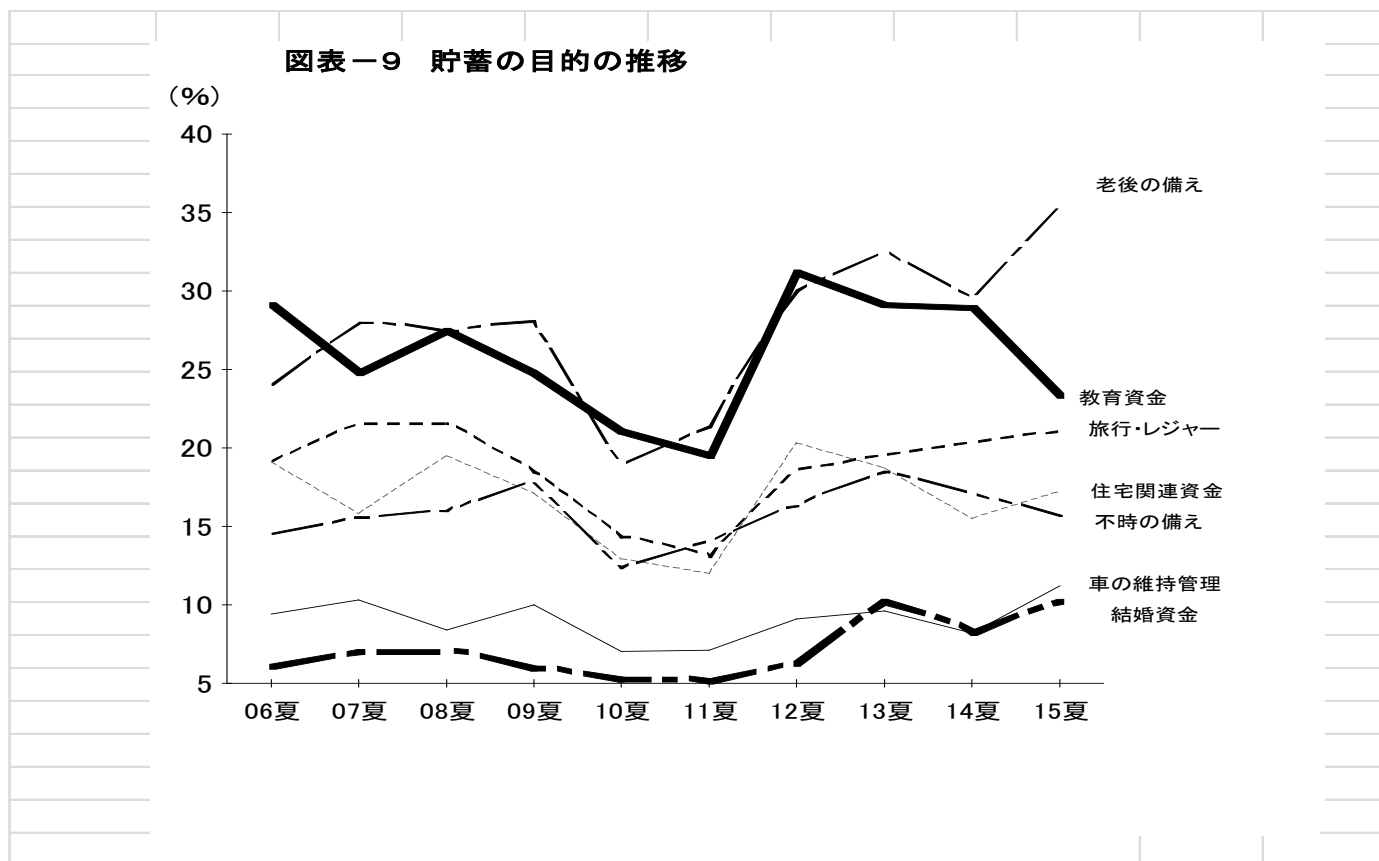


貯蓄の内訳を、既婚・独身、男・女別、年齢別でみると、いずれも「銀行預金」の割合が一番高い。その中でも30歳未満は85.4%で一番高い割合を示している。「銀行預金」以外では、「社内預金」は40歳代(13.3%)、「ゆうちょ貯金」は独身女性(8.7%)、「株式・投信」は30歳代(10.0%)が、それぞれ高い関心を示している(図表-8)。



5 貯蓄の目的

—貯蓄の目的は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー」が上位であった。以下「住宅関連資金」、「不時の備え」、「車の維持管理」、「結婚資金」の順となっている(図表-9)。—

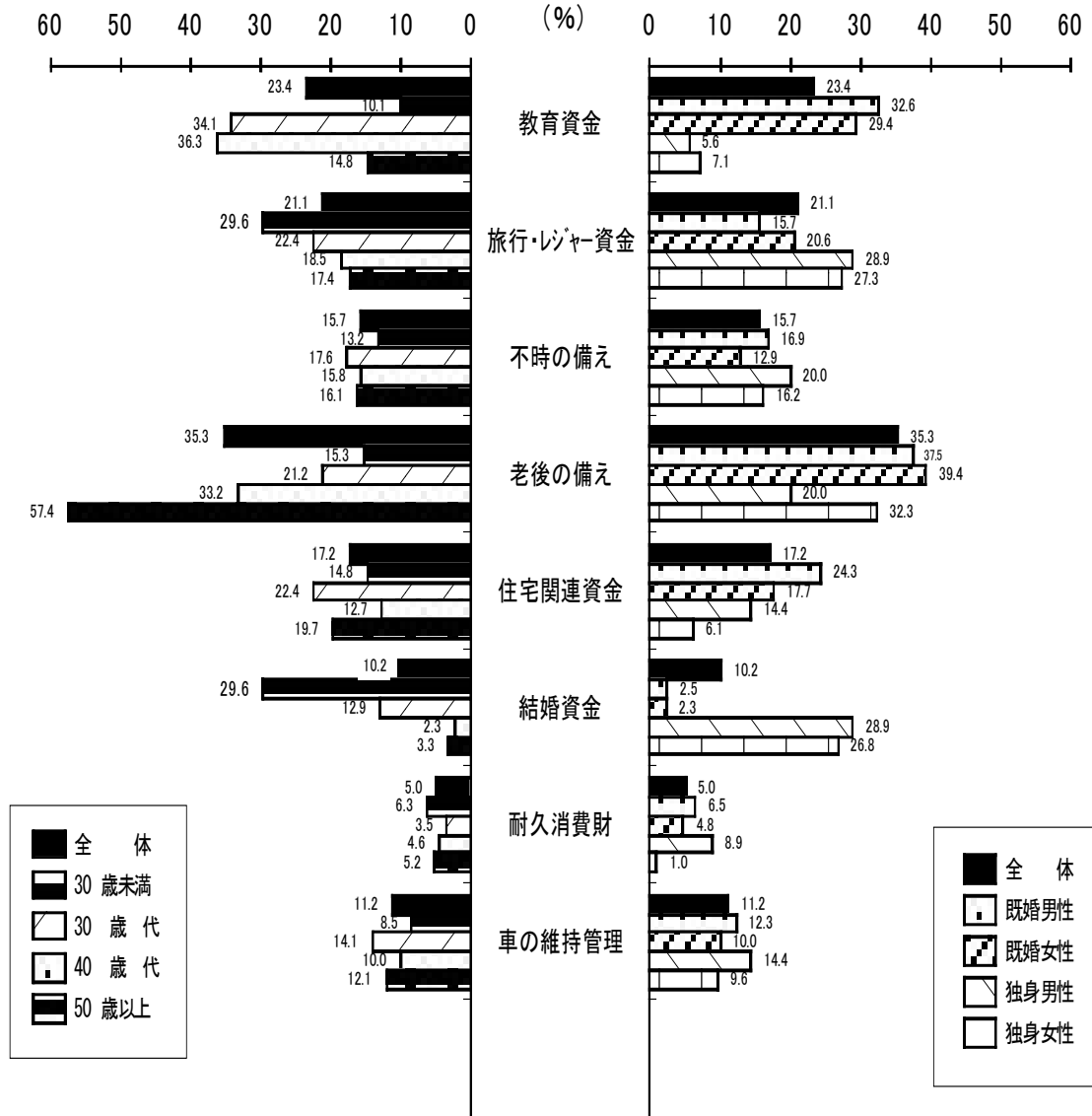


貯蓄の目的(複数回答)は、1位「老後の備え」35.3%、2位「教育資金」23.4%、3位「旅行・レジャー」21.1%、4位「住宅関連資金」17.2%、5位「不時の備え」15.7%、6位「車の維持管理」11.2%、7位「結婚資金」10.2%の順となった。

年齢別にみると、30歳未満は「旅行・レジャー」及び「結婚資金」(各29.6%)、30歳代は「教育資金」(34.1%)、40歳代も「教育資金」(36.3%)、50歳以上は「老後の備え」(57.4%)が高く、各年代のライフスタイルの特徴が表われている。

既婚・独身、男・女別では、既婚男性は「老後の備え」(37.5%)、既婚女性も「老後の備え」(39.4%)で、独身男性は「旅行・レジャー」及び「結婚資金」(各28.9%)、独身女性は「老後の備え」(32.3%)をトップにあげている。(図表-10)

図表-10 貯蓄の目的(複数回答)



注)左欄は年齢別、右欄は既婚男・女性、独身男・女性別

6 購入希望主要品目

—購入希望主要品目では、1位「婦人服」、2位「家具・インテリア」、3位「紳士服」が上位であった。既婚・独身を問わず男性は「紳士服」、女性は「婦人服」をそれぞれ1位にあげている。—

ボーナスで買いたいもの(複数回答)は、「婦人服」(12.9%)、「家具・インテリア」(8.3%)、「紳士服」(7.4%)の順となった。以下「鞆・ハンドバッグ」、「靴」、「子供服」となった。(図表-11)

				(複数回答、単位:%)			
全 体	13夏	14夏	今夏	既 婚 男 性		既 婚 女 性	
				婦 人 服	14.7	14.5	12.9
家具・インテリア	7.8	6.3	8.3	家具・インテリア	8.7	家具・インテリア	10.3
紳 士 服	9.5	8.7	7.4	子 供 服	8.2	子 供 服	8.3
鞆・ハンドバッグ	6.2	6.6	6.8	婦 人 服	6.6	鞆・ハンドバッグ	5.9
靴	7.1	7.8	6.3	冷 蔵 庫	5.5	洗 濯 機	5.6
子 供 服	5.7	6.4	5.3	独 身 男 性		独 身 女 性	
パソコン	4.2	4.7	4.8	紳 士 服	16.9	婦 人 服	23.9
化粧品	2.4	3.8	3.5	パソコン	8.5	鞆・ハンドバッグ	14.2
ルームエアコン	2.8	3.3	3.3	パソコン周辺機器	7.6	靴	11.2
洗濯機	2.5	3.4	3.3	靴	6.8	化粧品	8.8
掃除機	2.2	1.8	3.3	スポーツ用品	5.9	家具・インテリア	6.6

7 暮らし向きの実感と今後の見通しについて

(1) 収入

半年前と比べ、収入が「増えた」との回答は 15.7%で、半年後の先行きについての「増えそう」との回答は 14.4%で、1.3ポイント減少。一方「減った」は 13.9%で、半年後の「減りそう」は 15.5%で 1.6ポイント増加する。なお、いずれについても「変わらない」が約 70%を占める。収入についてはまだ明るい状況ではないことが窺える。

(2) 消費支出

半年前と比べ、支出を「増やした」との回答は 24.2%で、半年後の先行きについての「増やす」との回答は 12.5%で 11.7ポイント減少。一方「減らした」は 16.0%で、半年後の「減らす」は 29.3%で 13.3ポイント増加。家計支出の先行きは、慎重な姿勢の方が上回っているが、昨年のアンケートにおける「減らす」(夏:34.1%、冬:35.2%)に比較すると、その割合は小さくなっている。

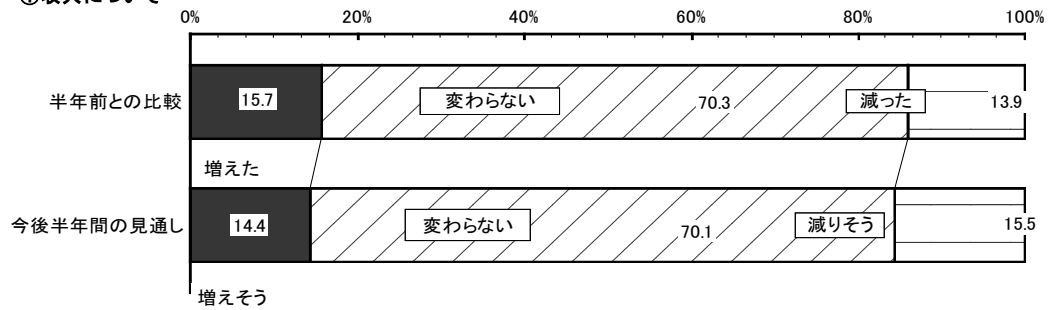
(3) 生活全般

半年前との比較では、「悪くなった」(13.5%)が「良くなった」(9.2%)を 4.3ポイント上回った。半年後の見通しについては「悪くなりそう」(20.0%)が「良くなりそう」(9.2%)を 10.8ポイント上回る結果となったが、昨年2回のアンケートにおける「悪くなりそう」と「良くなりそう」の差(夏:15.3ポイント、冬:13.6ポイント)に比べると、その差が徐々に縮小してきている(図表-12)。

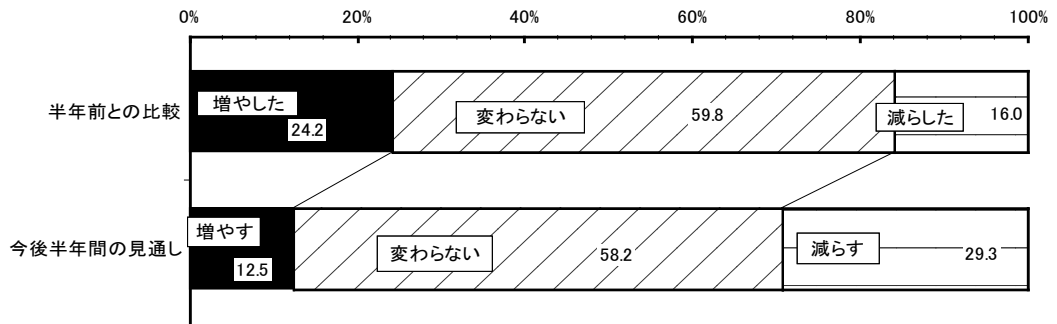
(高橋 廣)

図表一12 暮らし向きの実感と今後の見通し

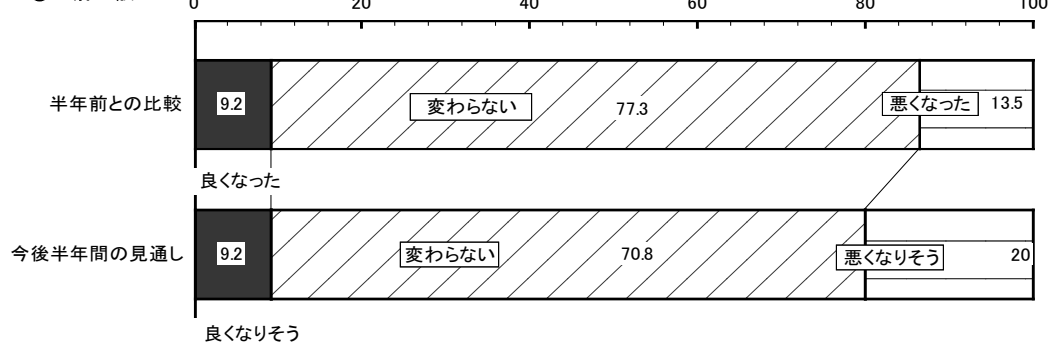
①収入について



②消費支出について



③生活全般について



回答者の構成					(人)
	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳以上	計
既婚男性	15	56	103	151	325
既婚女性	21	53	113	123	310
独身男性	47	23	10	10	90
独身女性	106	38	33	21	198
計	189	170	259	305	923

アンケート調査実施要領	
①方 法	千葉銀行への来店客を対象として、ロビーにて実施
②実 施 日	2015年4月8日～10日
③対 象 地 域	県内全域
④対 象 人 員	1,000人
⑤有効回答数	923人
有効回答率	92.3%